

平成30年度 環境教育の取組例

三重県教育委員会

【取組例：小学校】

学 校 名	取 組 内 容
志摩市立 鵜方小学校	<p>○1年 生活科「生きものとなかよし」</p> <p>6月、おしろき川近くの学校ビオトープ周辺へ、生きものの観察に出かけた。</p> <p>自然の中で、おたまじゃくしやザリガニ、ドジョウなど、いろいろな生きものがあることを確認しながら、楽しんで活動することができた。</p> <p>○2年 生活科「生き物たんけん」</p> <p>昨年に続き、6月6日、おしろき川近くの学校ビオトープ周辺へ、生きものの観察に出かけた。どんなところにどんな生き物がいるかを観察し、いろいろな生き物と周りの環境とのつながりなどに気づき、おたまじゃくしやザリガニ、ドジョウなどを採集し、楽しんで活動することができた。</p>  <p style="text-align: right;">(2年 生き物観察)</p> <p>○3年 理科「身近な自然のかんさつ」</p> <p>4月、学校の周りに生息する生き物や植物を観察し、季節の訪れを体感しながら自然に興味を持つことができた。</p> <p>理科「チョウを育てよう」の学習では、たまごや幼虫、成虫の世話をする活動を通して、飼育環境の大切さに気づくことができた。</p> <p>○4年 社会科「ごみの処理と活用」</p> <p>4～6月、家庭や学校におけるごみの量と種類、分別の仕方について</p>

て話し合った。また、学校やそれぞれの家庭が出すごみ集積所の観察から、ごみ問題の現実に子どもたち自らが関心をもつことができた。ごみが処理される、またリサイクルされる様子を、やまだエコセンターの見学から学んだ。

理科「春の生物」の学習から、ヒョウタン・ヘチマ・ゴーヤを育て、グリーンカーテンを作るため、花壇周りの草抜き等手入れを行った。

○5年 社会科「米作りのさかんな地域」

4～6月頃にかけて、単元の中の、米作りに関わる人たちの工夫や努力について考えさせる学習に取り組んだ。生産者側の立場から望む声を考えることで、自然環境や土地の条件、水の管理や作業の効率化、農薬や肥料の問題など、米作りにおける重要な要素と、そこにある生産者の工夫や努力を理解することができた。

また、消費者側の立場から望む声としては、「おいしくて、安心、安全な米」ということであるため、その要望に応え、減農薬による米作りを進めていることを理解することができた。

実際に、地域の方々の協力を得て、しろかき、田植えをする経験もできた。その後の学習では、稲の生育状況も観察しながら、生産者側、消費者側両方の要望、工夫を考えさせ、農薬などによる自然環境の変化について考えさせていく。



(5年 田植え)

○6年 理科「植物のつくりとはたらき」

6～7月、生物は環境と関わりながら生きていることを学習した。これまで栽培や観察を行ってきた植物について、その体のつくり（構造）とはたらき（機能）について知り、生態系を構成する要素として植物が重要な位置を占めていることを理解していった。また、ヒトは生態系を構成するひとつの要素であることを理解し、呼吸や光合成に加え、食物連鎖による生物どうしの関係から自然に対する見方を広げることで環境問題にもつなげていった。